

脱・下請け 技で独自商品

ものづくりの街、東京都大田区。老舗のある町工場が2年前、世にも珍しい「アート」を思いつき、置物として売りはじめた。漫画家は絶賛し、行政の支援の輪も広がった。下請けの工場が多いため、消費者向けの商品は珍しい。育て、「大田区ブランド」に。

数学の美 町工場が解く

東京・大田区で70年 老舗の挑戦

大田区とともに70年あまりの時を刻んできた金属加工の「大橋製作所」(資本金9600万円、従業員約100人)。ここが、その置物をつくった。数学と芸術をかけあわせた、名付けて「数楽アート」だ。

わたしたちは学校の教科書で、xやyなどであらわす「関数」のグラフを、紙のうえ、つまり2次元でみってきた。

それを3次元の世界で再現し、直線や曲線で織りなされる形を、ステンレスでつくる。

その結果、「 $z=axy$ 」は、馬の鞍の形になる。「 $z=-a(x^2+y^2)$ 」は、ツクシの頭のような放物面に。

2014年4月までの透明のケースに納められ、値段は1万円台から10万円台。種類は20ほどある。2010年に丸善の東京・日本橋店で売られ、東急ハンズも名古屋のANNEX店でも丸善のオンラインショップやアマゾンなどでも買うことができる。いままでにおよそ160個、あわせて500万円ほどを売り上げた。

大橋製作所は、第1次大戦のまっただ中だった1916年に、東京の芝あたり創業した。もともとは金属を加工する板金工場だった。



最初は一枚から

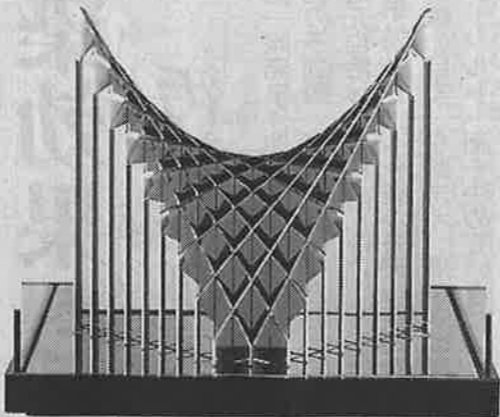


切り出し



組み立て

立体アート「 $z=axy$ 」



地域発 企業発
けいざい最前線

品質検査

販路開拓 自治体も後押し

漫画家、たなかじゅんさん(46)が数楽アートを見たのは、昨年10月だった。「数学って美しいものなんだ」と感動しました。

実家は、和歌山の町工場。鉄工所を継いだ少女がえがく「ナツちゃん」を長期連載するなど、ものづくりの楽しさを伝えてきた。

大田区産業振興協会の「新製品・新技術コンクール」で審査員をしている。

この2月、協会の冊子で連載している漫画のキャラクター1名を使った「テク乃ちやんイチ押し賞」に選んだ。副賞は、大橋製作所が

大きな展示会に出る際の費用の肩代わりだ。協会は、さまざまな支援をしてきた。ネット販売を増やすため、デザイナーを紹介してホームページづくりを助言してきた。協会の関係者はいう。「おおくの町工場にとって、最終商品づくりは未知の分野。あらたな挑戦には応援を惜しみません」

大田区は、羽田空港の国際線ターミナルに展示している。大田工業連合会や東京都、東京都中小企業振興公社も、販売先の開拓などを支援している。

反響は大きい。ビートたけしの深夜番組「たけしのコマ大数学科」では、スタジオセットなどにつかわれている。大学受験生など向けの月刊誌「理系への数学」(現代数学社)も、この1月号から表紙に数楽アートを載せている。

大田区の町工場を見つけている静岡大大学院客員教授、奥山睦さん(53)はいう。「出発点は、数学の研究室で、おや、と気付いたこと。中国などに追いつかれてきた町工場には、この『気付きの能力』が必要だ。そこからイノベーション(革新)が生まれる」

だが、板金の分野は、下請け仕事のままだった。大手メーカーからもらった設計図どおりにつくって納めるため、コストダウンを求められつづけていた。

09年春、ある大学の数学研究者から、こんな依頼があった。

直方体のサイコロをころがす機械をつくらせてほしい。それぞれの面がでる確率をもとめたいんだ。

大橋さんと、開発担当の平野佳伸さん(54)が研究室を訪れた。そこに、関数を紙でつくった置物があった。

大橋さんが、ひらめいた。これをステンレスでつくったら面白いかも。

関数を忠実に再現するデータづくり。レーザーをつかった精密加工技術、そしてステンレスの表面に傷をつけない組み立て技術。平野さんをリーダーに、町工場の底力が結実した。

大橋さんは語る。「ビジネスとしてはまだまだですが、消費者向けの仕事を始めたことで、社員のやる気が増えています」

異能商人の戦後50

「国民生活を守る」旗印に

ライフコーポレーション会長 清水 信次さん

が発足した。設立を呼びかけていた清水氏が初代会長に就いた。

経済団体といえば、経済団体連合会や日本商工会議所があるが、生団連はこれらとは違う。「国民の生活を守る」を旗印に、衣食住の提供という社会インフラ的な役割を果たしている我々と消費者団体が、国民の目線から政府に様々な提案をしようというものだ。



昨年12月2日、流通、食品メーカー、外食など消費者の生活に関わりが深い業界の481企業・団体が集結した「国民生活産業・消費者団体連合会(生団連)」



背中押した大震災

生団連は昔から温めていたアイデアだったが、背中を押したのは昨年3月の東

自ら仕事つくる行動を

町工場を訪ね歩いて、経営者のみなさんに話を聞いている。

本日は廃業したくない、という無念さ。リーマン・ショックでも業績を伸ばした、という自負。きつけれど俺は負けない、という決意。

わたしが言えるのは、下請けとして自動車や電機部品の部品をつくる「サプライチェーン(供給網)」経営だ

記者の視点

けでは、いずれ親会社から取引打ち切られる、というご心配。たとえ海外に親会社といっしょに出たとしても、何年もつづけるのか。

せつかく技術力があるのだから、生かさないとはいない。大橋さんの会社は、数学の現場に行った。町工場のみならず、行動しよう、営業しよう、連携しよう。きっと新しい何かが生まれる。

(編集委員・中島隆)

「生団連」の設立パーティーであいさつする清水氏(2011年12月2日)

日本大震災だった。交通網はずたずたになり、モノはあるのに被災地に届けられなかった。事が起きたときにすぐに政府に対処策を提案できる組織をつくらなければならない。と痛感した。

経団連から煙たがられ、自らの意見や業界の考えを世の中に発信できる場を求めた。

経団連は日本の発展に貢

献したが、提言する政策では重厚長大の企業の意向が優先されてきたと思う。

1986年の売上税騒動のとき、時の首相の中曽根康弘さんは二十数品目にかかれていた物品税(消費税の一種)を電気製品などに広げようとした。これに電機メーカーが有力メンバーの経団連は猛反対。中曽根さんは売上税にかじを切らざるを得なくなった。

こうした経緯を聞いた私は、経団連会長だった新日鐵会長の斎藤英四郎さんに直談判を申し入れた。私は当時、日本チェーンストア協会長で、自動的に経団連の常任理事になっていた

が、売上税に反対だった。斎藤さんからの返事は「忙しくて会えない。常任理事が会長に会えないなんておかしい、とその翌日の早朝、新日鐵の本社に乗り込み、出社してきた斎藤さんを会長室の前でつかまえ、「間接税の賛成は経団連のエゴだ」と言いたいことを言った。

しばらくしてあった自民党と経団連の会合では、自民党から寄付のお願いがあった。私は「政治、政党が本当に必要なお金は、欧州のように堂々と国費からとられたらどうか」と発言。

朝日新聞デジタルで、清水氏が「生団連」にた

JT

緩和策「制御不能なインフレ招く」日銀総裁

日本銀行の白川方明総裁は21日、米ワシントンで講演した。対銀の資金繰りを助けた対応について「意義は大

財政健全へ 先進国

国際通貨基金の諮問機関である金融委員会(IMC)は21日、すべての国の体的な財政健全を促すよう求め、採択した。

IMCは、IMFCの財務相や中東の構成し、IMFCの組織。声明では、

加入 22年

協会長の任期は22年、また会費はない。入会費は、いはずなのにならぬ。「検討中」とも、生団連では、